

(3) ライフサイクルコストの低減  
Ⅲ③環境と調和した施設への転換

**既存沼の浸食護岸を自然石護岸で整備し、自然の回復を図る**

環境事業団 埼玉（鶴ヶ島）緑地護岸その他工事

【施策の概要】

埼玉県鶴ヶ島市に既存の沼を生かした緑地（大気汚染対策緑地）を計画したところ、沼の護岸はかなり浸食され利用者の安全の問題もあり、護岸の整備が必要となりました。

従来の護岸と言えば、コンクリート護岸が一般的でありましたが、かごマット等を用いた自然石護岸にし、環境と調和した施設への転換を図りました。

また、既存の沼の自然環境に配慮し、より良好な自然環境を積極的に創出できる植栽・施設整備を推し進めています。

【施策のポイント】

- ・護岸の基礎はコンクリート基礎などを造らないで、直接かごマットを設置しました。
- ・自然石も切石でなく野面石で自然風に積みました。
- ・石積も背面や目地にコンクリートを使用しない空積にしました。
- ・かごマットや石積は生物生息空間になることを想定しました。
- ・沼への張出し部を造って、沼に近い場所に利用スペースを確保して、護岸に変化をつけました。

【施策の実施状況・イメージ図】

